様式3

学校番号 特9

令和 5 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立太宰府特別支援学校

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	5つの取組の徹底を通して、児童生徒・教職員・学校を大切にし、成長を目指す!チーム太宰府		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
学校運営計画に基づく各学部及び各課の目標はほぼ達成できた。特に、重点課題研究指定を受けて取り組んだICTを活用した授業づくりと校内体制整備が充実した。 今後は、引き続き授業力向上を図るとともに、教職員の専門性向上、人材育成、緊急時対応、防災備蓄の充実等が課題である。さらには、教育課程実践交流会に向けて、観点別評価を生かした指導と評価の一体化を図る取組を推進する必要がある。	児童生徒一人一人に適した教育の充実	○児童生徒の実態に応じた指導の充実と学びの連続性の重視(「鍛ほめ福岡メソッド」の展開) ○カリキュラム・マネジメントの確立　○ICT活用による資質・能力の育成 ○進路開拓・進路指導・職業教育の充実　○施設・設備、教材・教具の充実	A
	安全・安心な教育環境の充実	○人権を尊重した指導の充実　○児童生徒指導の充実　○安全対策の充実(不祥事防止の徹底)	
	信頼される指導・支援・取組の充実	○特別支援教育のセンター的機能の充実　○ホームページ・広報活動の充実　○保護者との連携 ○地域と一体となった学校づくり　○指導・支援・取組に必要な諸条件の整備	
	組織力の発揮・向上・継承	○分掌組織の縦・横のラインを意識した業務遂行　○諸課題に対する組織的な取組の推進 ○働き方改革の推進	
	専門性の発揮・向上・継承の充実	○人材育成・専門性向上　○外部専門家との連携　○校内支援体制の充実	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)			次年度の主な課題
A部門 知的障がい 教育部門	小	児童の障がいの状態や発達段階に応じた指導及び学部内の系統的な指導の充実	R5年度1学期、R4年度2・3学期の評価を基にした、年間指導計画の見直し【夏季休業中】	A	A	A	国語・算数の年間指導計画の新様式を作成することができた。次年度以降、計画段階から活用したい。 重点課題研究の取組により、ICTを活用した授業づくりが充実した。今後、効果的な教材の活用方法を検討する。
			学年グループでの協働におけるICTを活用した授業づくり【一人一実践】	A			
			タブレット端末を使用したICT教材の保存・活用方法の検討【学期末】	B			
	中	生徒一人一人の障がいの特性や心身の発達段階に適した指導の充実	系統的・教科横断的な視点からの年間指導計画の見直し【長期休業中に2回以上】	A	A		年間指導計画と個別の指導計画等を連動させることで実態に応じた見直しができた。学部の情報交換会は指導技術の継承にもつながった。 今後は日常的な教師間交流の機会を増やすことで、指導の充実につなげたい。
			障がいの特性等に関する学部内情報交換会の実施【月1回以上】	A			
			学年及び学部相互の教師間交流の実施【学期1回以上】	B			
	高	卒業後の自立した生活と社会参加に向けた継続性のある指導の充実	ICTを効果的に活用した授業づくりのための教科会議の実施【学期1回】	B	A		卒業後の希望進路実現という高等部段階の大きな目標のために、進路指導部と連携した進路指導や職業教育を充実できた。 来年度からコース制を廃止し、高等部の体制が大きく変化する。新たな体制充実のための議論の継続と検証が来年度以降の課題である。
			学部会における生徒との関わり方や適切な対応・支援体制に関する情報共有【年6回】	A			
			職業教育の充実と進路指導課と連携した進路研修会の実施【年3回】	A			
B部門 肢体不自由 教育部門	小	児童一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実	授業の評価、改善、年間指導計画の見直し【学期毎】	B	B	B	授業後の評価・改善の時間を十分にとり、さらに指導の充実を図る。訓練見学や外部専門家の助言を通して、指導技術の向上を図ることができた。 学部内で共有し、学び合い、深めていく。ICTを日常的に活用していく。
			自立活動の指導力向上(見合い、学び合い)【月2回】	B			
			ICTの効果的な活用を学部で共有【学期2回】	A			
	中	生徒一人一人の障がいの特性や心身の発達段階に応じた安全・安心な教育環境の充実	「緊急時対応マニュアル」の定期的な確認【学期1回】	B	A		「緊急時対応マニュアル」の確認については、今後も定期的に行うことで、想定外の事象にも対応できるようにしていきたい。 また、自立活動に生かすために、訓練見学を積極的に活用していきたい。
			生徒一人一人の自立活動の内容についての学部での共有【学期1回】	A			
			各行事を安全に実施するための綿密な計画・立案【行事毎】	A			
	高	卒業後の進路を見据え、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすための教育の充実	生徒の可能性を最大限に伸ばすための、高等部教育課程についての検討【月1回】	B	B		高等部において、「目指す生徒像」を教職員全員で検討し、教育指導計画、教務内規等を見直し、教育活動の改善を図る。 また、年度途中から導入した学部研修を継続、発展させることで教員のもつ専門性の相互伝達を推進する。
			ICTの効果的活用の推進のための、ICTを活用した授業づくりの実施及び共有【月2回】	A			
			肢体不自由に関する専門性向上のための、外部専門家や自立活動係等との連携【月1回】	B			
教務部	教務課	カリキュラム・マネジメントの確立に向けた指導・支援の推進 教育環境整備の充実	個別の指導計画における観点別評価【年2回】とそのための研修の実施【2回】	A	A	A	三つの具体的方策について、計画どおり実施することができた。 次年度から始まる教育課程実践交流会に向けて、研修課と連携して準備を進めていく中で、教師の授業力向上、児童生徒の学びの充実に努める。
			年間指導計画や単元計画を個別の指導計画に関連付ける活用方法の検討【3回】	A			
			統合型校務支援システムの円滑な運用【随時】	A			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
A	A：適切である B：概ね適切である C：やや適切である D：不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	○教師間交流を通じて指導技術の継承を図ってほしい。 ○タブレット端末を自由に使っている姿に感心した。 ○掲示物を見て、小学生の感性が素晴らしく、表現力の豊かさに感動した。 ○保護者は子供たちの卒業後の人生に不安を持ってると思う。子供たちが少しでも自立できるような教育を期待する。
A	○昨年度の課題から、今年度の評価が分かりやすい。 ○医療的ケアの必要な子供たちの在籍、感染リスクが高い昨今の教育に視点を置いた「健康」を目標に挙げてもよいのではないか。 ○ＩＣＴを活用してボッチャなどスポーツにも活用できることを初めて知った。工夫次第で無限の可能性があると思う。 ○児童生徒の発達度合いに応じた指導は難しい面があると思うが、今後のさらなる指導の充実に期待する。
A	○校務支援システムの円滑な運用により、学習指導に一層力を入れてほしい。

教務部	庶務課	PTA活動の円滑な運営と広報活動の充実	PTA役員と担当職員との密な連携と協働【行事毎】	A	A	A	多くの学部、学年でボランティアを活用してもらうことができた。 新規のボランティアを増やすため、ボランティア講座の回数を増やしたり、講座ポスターを近隣大学に掲示したりする等の広報活動を行っていきたい。	A	○日々進化しているＩＣＴの最先端技術を常に取り入れることが大切である。 ○教師のＩＣＴ活用能力等、さらなる研修に努めてほしい。 ○児童生徒及び教師がタブレット端末を自由に使う姿に感心した。 ○ＰＴＡとの連携がとれていることが魅力的である。 ○防災備蓄について、ＰＴＡ会費から支出する物を検討しほしい。
			ホームページの継続的な更新作業【随時】と学校新聞の発行【年2回】	A					
			ボランティア養成講座の開催と計画的な活用【年3回】	B					
	情報管理課	各種PC、タブレット端末、ネットワーク、貸出機器類の適切な管理及び校務や学習場面での利用推進	一人一台タブレットPCや周辺機器の点検・環境整備【毎月1回】	A	A		今年度までに構築した機器管理環境を次年度以降も徹底するとともに、紛失防止の対策を引き続き実行していく。 また、活用推進にも目を向け、教職員のICT活用能力向上をねらった研修を計画したい。		
			PC室の貸出物品や電子黒板の点検・環境整備【学期毎】	B					
			FSの使用状況の把握と毎学期末の整理の呼び掛け【学期毎】	A					
進路指導部	進路指導課	進路実現に向けたキャリア教育	キャリアシートを活用した進路相談記録の引継ぎ【学期毎】	A	A	A	キャリアシートを確立でき、情報引継ぎ、開拓及び共有で有効に活用できた。 キャリアパスポートの活用に向け、審議できた。情報発信については、手段、方法、内容について今後も検討していく。	A	○進路開拓は大変さを想像する。 ○キャリアパスポートが進路指導に結び付くと良い。 ○進路について、合同企業説明会のようなものが実現できないものか。
			系統性のあるキャリアパスポートの活用【学期毎】	B					
			進路に関する情報発信【月毎】	A					
児童生徒指導部	児童生徒指導課	生徒指導上の諸課題に対する迅速かつ組織的な対応及び安全対策の充実	いじめにおける報告方法の改善及び職員への周知徹底【学期に1回以上】	B	A	A	今年度、いじめの報告方法や様式を見直したため、周知徹底を図っていく。 災害時避難訓練については、計画どおりに実施し、ベースをつくることができた。駐車場や時期の問題など改善点も見つかったため次年度に向け検討し、より綿密な計画を立ていく。	A	○児童生徒指導部が、児童生徒の学校生活と密接している部署であることが分かった。 ○通学バスとの連携は大変だと思う。事故なく運行できて良かった。 ○安全安心の確保が大切だが、様々な個性をもった児童生徒を把握するだけでも大変だと思う。
			SCやSSW等と連携した指導支援の実施【随時】	A					
			学校と地域が連携した災害避難訓練の実施【年1回】	A					
	交通管理課	児童生徒の通学方法の適切な管理と本校を利用する車両等の効果的な交通整理	通学バス車内の状況確認と添乗員との情報共有【週2回以上】	B	A		通学バス担当、担任、運転手・添乗員の三者で車内における児童生徒トラブル等に迅速に対応することができた。 今後もより早期に対応に当たることができるように密な情報共有と連携を行っていく。		
			自力通学・単独通学生徒の通学路の安全確認の実施【随時】	A					
			行事予定等に基づく駐車場の年間管理と環境整備【随時】	A					
	保健課	児童生徒等の健康の保持増進を図る保健教育及び保健管理	日常的な健康観察による児童生徒等の健康状態の把握【毎日】	A	A		「幅広い性のあり方を尊重する」という観点から、性に関する指導の考え方に伴った指導教材の検討が必要である。 個別の緊急時対応マニュアルでは、指示書を反映したマニュアルとなるよう、周知徹底を図る。		
			学校環境の衛生管理に向けた職員清掃【週1回】と消毒の実施【随時】	A					
			緊急時対応マニュアルに基づいた救急処置における校内体制の整備【年2回～3回】	B					
研修・支援部	研修課	重点課題研究最終報告会に向けた教員主体の取組による指導力の更新	公開授業を軸とした学部での授業研究の実施【年1回】	A	A	A	クリアビジョンシートを活用した教員の協働による授業づくりやICT活用サポートチームを中心とした校内体制整備による組織的な取組について、持続可能な範囲で機能を残していきたい。	A	○様々な考えを持つ教員集団に研修を行うことは本当に困難であろうと思う。 ○授業を見ていると、ＩＣＴ研修等をうまく推進されていると感じた。
			職員全体を巻き込んだ最終報告会の運営【年1回】	A					
			教員の実践を主体としたICTを活用した研修の実施【年5回】	A					
	支援課	児童生徒への支援の充実及び職員全体の専門性の向上	支援体制の向上のための校内支援Coの授業巡回【各学部週あたり5回～10回程度】	A	A		夏季相談会実施を継続するとともに、授業に関わる校内支援を充実させることで特別支援教育のセンター的機能の充実や本校全体の専門性の向上に努める。		
			具体的支援方法明確化のための校内人材バンクの活用【随時】	B					
			太宰府市、筑紫野市、近隣高等学校における夏季相談会の実施【夏季休業中に実施】	A					
事務部		安全・安心に活動できる施設・設備の整備	施設・設備の定期的点検及び修理整備【随時】	B	B	A	年間予算執行計画を立てることにより、確実な施設設備の整備・物品等の充実に努める。		
			教職員と連携した上での必要な設備等についての予算要求等の実施【随時】	A					
		学習活動に必要な教材・教具の充実	教務担当者と連携した上での必要な教材・教具の把握充実【随時】	A	A				
			教職員と連携した上での物品等の修繕【随時】	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・重点課題研究の成果を生かしたICTを活用した授業づくり及び校内体制の継承・充実

・授業力及び教職員の専門性向上、人材育成を目指した継続的な取組

・実効性のある災害時対応体制の構築及び災害時備蓄品の点検・補充

・教職員の働き方と教育活動の質の担保、及び児童生徒・保護者対応等の充実

・教育課程実践交流会に向けた観点別評価を生かした指導と評価の一体化を図る取組の推進

評価項目以外のものに関する意見

○自然に包まれた中、学校全体が落ち着いており安心感が伝わってきます。
○グランドデザインは一貫性があり、分かりやすい。
○学校評価書について、具体的方策の全項目に評価基準（客観的目標値）を設定し、成果と課題を明示されているため、評価結果が明確化されている。ぜひ継続してほしい。